

東北地方都市住居の構えかたに関する研究

—— その2 伝統的な住居の構えかた ——

戸 部 栄 一

Study on Patterns of Culture of Urban Houses in TOHOKU

—— part 2 The traditional KAMAEKATA ——

Eiichi TOBE

Abstract

The objective of this research is to explain the characteristics and meanings of urban houses in TOHOKU from the point of view of Patterns of Culture. In part 1, the objective and method of this research was mentioned. In this paper, the traditional KAMAEKATA is considered from past documents and our questionnaires.

It is clarified that traditional houses have following characteristics, (1) Constitution from only Japanese style of rooms, (2) Rooms connected to next rooms, (3) One story houses, (4) Orders based upon Japanese traditional heritage, such as, front and back area, Kamiza and Shimoza area, and so on, inside a house. It is also discussed that these characteristics fit for their daily life and social one, so these system can be called Japanese traditional KAMAEKATA.

1. はじめに

本研究の目的は、東北地方の都市住居の形態の特徴とその持つ意味を住文化の視点から説明することである。本研究の特色は住居を文化の視点からみるという点にあり、このために「構えかた」という研究上の操作概念を設定している。住居の形態（構え）とこれに対する行動の型（住み方・感じ方、つくり方）にそれぞれ一定の形式としての型があり、両者を型として統合する目的と関心が認められるとき、これを「構えかた」と呼ぶ。

研究全体の目的はいうまでもなく、現代住居の構えかたを明らかにすることであるが、これに到達するためには、伝統的な住居の構えかたがどうであったのか、それがどのように変容し、あ

るいは継承されて今日に至っているのかという分析が必要である。（その1）では研究の目的と方法について明らかにしたが、本稿は伝統的な住居を対象とし、どのような「構えかた」というかを考察する。

2. 伝統的住居の見方

2.1. 伝統的な住居の概念と形成時期

伝統的住居は文化的な概念として設定する。すなわち、歴史的につくられそれが社会的に一般化し、規範性をもって継承されている住居、それを伝統的な住居と見るのである。

このような観点にたてば伝統的な住居のモデルの設定は比較的容易である。今日まであるいは少なくともつい最近まで継承されてきた中規模以上の都市住居といえば、接客構えの明確な、一定の格式のある住居が想定される。このよう

昭和63年10月28日受理

* 建築工学科助教授